

「信頼には信頼を、裏切りには報復を」
 「攻める戦さは好かん。ばつて、攻めらるる戦さは受けて立つ」
 「風と牙」「元寇」「武士もののふの旗」
 海洋歴史活劇三部作「第二弾」

元寇

作演出 岡部耕大

二七四(文永十一年、モンゴル(元)・高麗の三万余りの大軍が軍船をもつて対馬、壱岐、鷹島を侵略して肥前の松浦海岸を侵し、ついに博多湾に上陸した。暴風雨のために、停泊中の多くの船が沈没してモンゴル軍は大敗したが、この「文永の役」と、同じく暴風雨で日本が勝利を取めた二八(弘安四年)の「弘安の役」は「元寇」と呼ばれ北条幕府を震撼させた。

この物語は、元寇の役の間場となった肥前松浦で生まれ育った岡部耕大が、子供の頃から抱いていた「なぜ元は日本を攻めたのか」という疑問を人間歴史活劇として蘇らせたものである。

源義経がジンギス汗ではなかったのか

ジンギス汗の英傑の血を引くモンゴルの英雄、世祖フビライが、南宋(当時の中国)を滅ぼし、

日本攻略の野望を強く抱き執拗にこだわったのは、義経がジンギス汗だったからではないだろうか。

平氏が滅んだ後、頼朝と争った義経が、遠い北の国へ逃げたという説がある。北へ逃れ大陸へ渡った義経は、ジンギス汗となりモンゴル帝国を興し、孫のフビライに鎌倉幕府への復讐を託したのではないだろうか。

再び蘇る潜龍の伝説

前作「風と牙」では、源頼朝は九州武士団「松浦党」を率いる吾妻姫を恋慕するあまり、鎌倉武士団を指揮して玄界灘で壮絶な海戦を繰り広げた。吾妻姫は「松浦党」の安泰を祈り、海に身を投げたが、それでも頼朝は松浦を攻めた。そして、ついに伝説の西の果ての海に潜む龍が怒り、海にのたうち回り暴風雨を引き起こし、頼朝軍団を海の藻屑としたのである。その伝説の潜龍が「元寇」でも蘇る。「神風」である。神風が台風であったことは定説になっているが、「元寇」では伝説の潜龍が再び暴れることとなる。

あの玄海を染めているのは夕陽か血か

「劇は終局人間を描くことにある」という岡部耕大が、歴史劇に生々しい人間ドラマを取り入れ、史実と物語を織り交ぜながら、夢とロマンの大冒険活劇を完成させました。



旺なつき



伊東達広



加山れいこ



高野浩幸



勝呂 誉



加藤繁木



矢野晴彦



三上伸行



小嶋 章



小沢俊明



増山浩一



瀬川新一



望月大助



紺野康文



仙頭美幸



咲坂雪乃



岡 政樹

1997年11月20日(木)18:30 21日(金)18:30 22日(土)14:00

開場：開演30分前／受付開始：開演60分前

前進座劇場

武蔵野市吉祥寺南3-13-2
 JR/井の頭線吉祥寺駅公園口
 井の頭通りを新宿方面に徒歩10分
 0422-49-0300

- 料金：5,000円(全席指定)
- 予約・問合せ：岡部企画 044-933-9754
- チケット取り扱い：チケットぴあ03-5237-9999
 チケットセゾン03-3250-9999

9月11日(木) 前売開始!